

第5章 犯罪被害者等の方々の手記

本調査にあたり、調査結果の報告と併せて掲載する手記を被害者（パネル）及び被害者（Web）に募集した。以下にその数件をご紹介します。

犯罪被害の状況

上村 賢治

JR 吉祥寺駅から徒歩で、丸井の横を通り、井の頭公園を抜けて、帰宅する途中の出来事です。3月の午後7時頃でしたから、ちょうど暗くなってきた頃です。公園から抜け出て、坂が緩やかになった所でした。後方から追い越してきた若い男性歩行者が前方の角を左に曲がって、姿を消した瞬間、後方からいきなり、鋭利な刃物で攻撃してきました。もう一人追い越そうとしていたと思いますが、道の左側を歩いている狭い方を追い越そうとしているように思えたので、左側を向いたら、足音が右側に移っていったので、右側を向いたら、右の耳と左の耳にひやりとした感じがし、次にシャツの下に液体が流れる感じがしました。ジュースか何かをかけられたと思い、いたずらにもほどがあると少々腹が立ちました。後ろから羽交い締めにして抵抗力を奪ってから、「ころすぞ・・・かねだせ」といいました。2種類の日本語しか使わなかったのも、声色から、しわがれ声の日本人だと思いましたが、それ以外の言葉は話せない外国人で、年齢もはるかに若い（走って逃げた時の様子から）可能性があります。

犯人は黒っぽい野球帽、黒っぽい縁のめがね、白いマスクをしていて、人相については見ていないも同然です。黒っぽいジャンパーみたいな上着と白っぽいズボン、白っぽい軽いスニーカーを着用していました。背丈は160-162cm、体重は軽く53kgくらいで、やせた細い腕をしていました。

羽交い締めされた状態でしたから、すでに刺されていることも知らなかったのも、スニーカーのつま先を靴のかかとで思い切り踏みにじってやりました。刺されて、左腕が麻痺していることも、出血していることも気づかなかったので、相手を捕まえてやろうとしましたが、左手が麻痺していて、動きませんでした。それで犯人は急いで井の頭公園の中へ逃げ込んでいってしまいました。

被害は、左頸部の刺し傷ですが、救急車で病院に搬送されて、幅15mm、深さ60mmというかなりの重傷でした。通りがかりの歯科衛生士の方がタオルで押さえて止血し、救急車がくるまで、手当てしていただきましたので、比較的失血しなくて回復が早かったものと思われま。現場には、最初に消防車が3台、ついで自転車の警邏巡査、パトカー4、5

第5章 犯罪被害者等の方々の手記

台、そしてやっと救急車がきました。結局10日ほど杏林大学病院に入院しました。見た目より深さが問題ですから、注意することが必要だといわれました。

退院後、警察で被害状況の説明をしましたが、犯人は結局捕まりませんでした。そのせいか犯罪被害者支援など一切ありませんでした。

この事件以来、後ろから近づく足音や衣擦れの音がしたら、必ず振り返るようになりました。特に、顔を隠すようなもの（帽子、めがね、マスクなど）を着用していたら、用心しています。周りに人が無くなるまで尾行していた可能性があるため、大人が二人以上連れ立つように気をつけています。とりあえず、見える範囲にほかにも人がいるような状況を維持するようにしています。暗くなって帰宅しなくてはならないときは、バスで遠回りしています。

このような犯罪被害が起こらない社会を作らないといけないと思い、現在は小学校の低学年児童の下校時にシルバー人材センターの同輩とともにパトロールをしています。

性犯罪及び幼少時からのDVに関する体験談

monamona 28歳

私は小さな頃から親や近所に住む親せきからDVを受けていました。ただ物心つく前からでしたので、それが当たり前で他の家庭でもそうなのだと大学に入り知識としてDVを知るまで認識しておりました。周りの子供たちからは変わってるとよく言われていましたし、少し違うとは感じていましたが、そのせいでいじめられても家庭のものよりもずっと軽く無視されるよりマシだとさえ思ったほどです。いじめとすら認識していなかった。泣いたりすればよけい殴られたり怒鳴られたり罵られたりするのがよくわかっていたので、学校で何をされてもへらへら笑っていました。それは自分で自分を守るために小さな頃身に付いたものでした。声を出して泣くこと家で勉強することテレビを見ることは許されない。高校卒業するまで門限は授業が終わり次第帰宅しなければならず、友達もできませんでした。夜9時には消灯でしたので親が寝静まるのを待って、夜中3時くらいから薄明かりの中勉強したのを覚えています。学校の授業中に宿題をしました。優等生であることが当たり前で、トップクラスの学校へ行っても褒められることはなく、失敗すると折檻がまっていました。いつか親から逃げ出そう...そう思って二十歳までは親の所有物だと言われていましたので、言うとおりにして大人しく敷かれたルールに従って進んでいき自我を抑え込みひたすら時間が過ぎるのを待ちました。

大学卒業した後、やっと自分の好きなことができるようになったので一人暮らしをしながら、親の希望の学部に行ったせいで自分の好きな学部に行けなかったので、自分でバイトしてためたお金で専門学校に通い始めました。やっと好きな分野が勉強できる...もちろん大学時代も独学で勉強したくさん資格をとりました。自分を守るための武器や防具を増やすためです。何かあっても対処できるように四年間かけて忙しく勉学に励みました。

専門学校に行くときも大反対されました。一人暮らしも。反対を押し切り一人暮らしをし始めた半年後...性犯罪に巻き込まれ...親にも恥ずかしくて言えず...いえ...言うことできないから罰が当たったとなじられそうと言えませんでした。一人で警察に行き一人で対処しました。ただ犯人は捕まりましたが反省は全くせず謝罪もなく、今のようにまだそこまで法律がなっていなかったせいもあり不起訴となりました。民事裁判まですると親にばれますし、警察の方に性犯罪は10割がた被害者が負けますと言われ諦めました。

知人の勧めで心療内科に通うようになり、性犯罪事件のこと以外にも親のDVも問題があることがわかりました。薬の副作用にも悩まされ、さまざまな症状がでてひとりで苦しい日々が続きました。この状態で学校へも行けず半年がたち、先生が実家に連絡を入れとうとう親にばれました。帰って来いと言われ引きこもりになりました。仕事も二社面接を受け二社ともうかりましたが、初日からいじめられ続きませんでした。自宅療養を続けるうちに、結婚式まぢかになり6年半も付き合っていた婚約者が二年半も浮気をしていたこと

が分かり婚約解消になりました。耐えきれず彼と一緒に自決未遂をはかったのですが、相手は救急車も呼ばずほったらかしにしました。奇跡的に回復したのですが、主治医の先生に助かったのは奇跡的なことだからねと念を押されました。

そのあとずっと相談に乗ってくれていたりした友人と付き合うようになり、結婚いたしました。もちろん病気のこともしております。何年も付き合っていかなければならない病気だとも、薬を飲み続ける限り子供を産むことすらできないこともしております。それでも一緒にいたいから子供もいらないとプロポーズしてくださりました。二人で住むようになってから、やはり病気の発作や自虐行為など大変迷惑をかけていますが、それでも懸命に私以上に必死になって対処しようとしてくれます。親でさえさじを投げたのに…。

親も今はだいぶ丸くなり、色々援助をしてくれようとしています。お金とか物とかで償えるものじゃありませんが、あの人たちはあれで精一杯なのだと思います。自分たちがしたことを悔いているのが最近になってわかるようになりました。許せはしませんが…少しは…心を閉ざすのをやめようかと…すこし開こうかと思っております。親と私との間に旦那様が入ってくれているせいでしょうか。まだまだ発作やフラッシュバックなどのさまざまな症状に悩まされ続ける日々ですが、頑張っけて負けないように、ハンディを背負っていてもなんとか頑張りたいです。国がもう少し精神障害者に対する支援を身体障害者と同等くらいに見てくだされば嬉しいです。交通機関や税金など差がありすぎます。市に相談しても自分たちで活動するなりなんなりすればいいじゃないですかとつっぱねられました。せつないです。

交通事故に遭って

ばにい

7月の土曜日の夕方、スーパーへ夫と二人で買出しに行った帰り道、信号待ちをして停車をしていたら、いきなりすごい衝撃に襲われました。私はそれまで後部座席で本を読んでいたのですが、本を取り落とし、前の座席に打ち付けられました。車が前に動き、前の車にぶつかりました。

最初はサイドブレーキを夫がかけ忘れて、クリープ現象で前の車にぶつかったのだと思いました。しかし運転していた夫から激突されて（ノーブレーキ）そのまま前の車2台も巻き込んだ4台の玉突き事故となったことがしばらくしてからわかりました。

周囲の方が救急車を呼んでくれたため、救急車が2台来て、1台が加害車両に乗った人を、もう一台に首の痛みを訴えた私が乗せられました。怪我名としては首の軽い鞭打ちで、全治2週間とのことでしたが、強い痛みはしばらくは感じませんでした。救急車の中で痛み出して、コルセットをつけられてものすごい格好で病院に・・・。

病院でレントゲンなどを撮られて、事故だというと、保険が利かないといわれて7万5千円の請求があり、持ち合わせがないため、後日またその病院へ行くことになりました。病院名はわかったものの帰り方もわからないし、夫は車の廃車手続きをしてから病院へ来てくれるまで途方にくれていました。家の近くではない病院だったので、お金を払いに行くのも一苦勞でした。

仕事も忙しい時期で、なかなか休みにくい中で、休まなくてはならず、かといって首を動かすと激痛が走る方向があり、仕事をしていてもかなり辛い体制で仕事をするハメになりました。加害者からは一切連絡はなく、保険会社とのやりとりのみで終始しました。警察にも行かされて、すごく時間や手間がかかりました。

車を買替えるお金も査定金額以上は出してもらえずに100万以上追加して買い換えることになりました。体もですが、懐にも大打撃です。幸い怪我は軽かったため、1月もすれば痛みもなくなりました。

回復してから、その時に自分たちが乗っていた車を廃車にする前に見ましたが、1ボックスカーの床が波をうっていて、その衝撃のすごさがわかりました。軽自動車だったら、後部座席にいた私は死んでいたはずだと車を引き取ってくれたディーラーから言われてとても恐ろしかったです。

ひき逃げ時効

中村 豊

交通事故は過失です。しかし、ひき逃げも過失ですか。

車と人間がぶつかったその瞬間は、百歩譲って事故、即ち過失としましょう。その後警察に通報せず、倒れた人が死ぬかもしれない事を承知で、逃げる事をひき逃げ事故と言うのですか。万歩譲っても事故ではありません。これは事件ですよね。犯罪ですよね。

ひき逃げ事件がおきると、警察は逃走車両の捜査をします。私の場合は見つかりませんでした。そして当時5年の時効となりました。初動捜査に問題があったと思います。

1. 捜査

- 1) 21:00 に事故があり、事件があった現場検証が終わり、通行止めが解除され、車両が通り始めました。翌日4:00 に再び交通を止め、遺留品捜査が始まりましたが、何も見つかりませんでした。通行止めを解除したため、遺留品は散逸しました。
- 2) 100m手前にコンビニがあり、外に向けてビデオが録画されていました。警察がそのコンビニに行ったのは、1週間経って上書きされてしまった後でした。
- 3) 修理工場に情報提供依頼をしたのは、はるか後のことで、なんの情報もなかったそうです。

警察に1) から3) を指摘して、担当者が代わる場合には、再発防止の観点から、同じミスをしない様に引き継ぎをお願いしておりましたが、一切引き継ぎはなく、その後もひき逃げ未解決事件が発生しております。警察の捜査が奏功して、犯人が見つかれば時効に対する不満はなくなるのです。

2. 時効

当時の時効は5年です。ひき逃げは事故ではなく、事件、犯罪であり、他の犯罪に比較して余りにも短いのではないのでしょうか。現在7年となりましたが、それでも他の事件、犯罪との乖離は大きいと思います。

時効になってしまうと、犯人は晴れて何もなかった事になり、若しその後犯行が発覚しても、罪は問えません。しかし、遺族に時効はありません。むしろ時効になったことで悔しさが増大します。遺族の身になって、この構図を想像してみてください。

公訴時効撤廃を求めます。